Nestlé in society

Creating Shared Value
日本での取り組み

ネスレ
Nestlé
Good Food, Good Life

「Nestlé in society：CSV ― 日本での取り組み」をお読みいただく皆さまへ

企業が長期的に成功し、株主の皆さまに価値を創出するためには、社会にとっての価値をも創出しなければなりません。
世界各国のネスレと同様に、日本でもさまざまな分野で社会とネスレ、その双方にとっての価値を創造するネスレの進化した CSR、「共通価値の創造」(Creating Shared Value ＝ CSV) に取り組んでいます。
「日本での取り組み」のページでは、「共通価値の創造」やその基盤分野（コンプライアンス、持続可能性への取り組み）も含めて幅広い事例をご紹介します。

目次

N-2　トップメッセージ
N-3　栄養
N-9　農業･地域開発と責任ある調達
N-10　水資源
N-11　環境サステナビリティ
N-15　人材、人権、コンプライアンス
N-17　社会貢献･ボランティア

トップメッセージ

ネスレ日本株式会社　代表取締役社長兼 CEO

高岡　浩三

ネスレのスイスでの創業の原点は、栄養不足による乳幼児の死亡率の高さに心を痛めた創業者アンリ・ネスレが開発した乳児用乳製品です。1866年の創業以来、およそ150年間にわたり、株主に優れた価値を生み出すと共に、社会のために価値を創造するというネスレの基本的な戦略は変わっていません。

社員が順守すべき基本的な価値観や諸原則をまとめた「ネスレの経営に関する諸原則」の中には、“「共通価値の創造(Creating Shared Value = CSV)」が事業展開の基本である”ことが明記されています。日々の業務の中で関わるさまざまなステークホルダーの皆さまにとっての価値を創造するためにできることを考え実践することが、社員一人ひとりの責務であり誇りでもあります。

1913年に日本で創業したネスレ日本は、おかげさまで2013年に100周年を迎え、新たな世紀を歩み始めています。日本での私たちの使命は、グローバル企業としての強みを最大限に生かしつつ、日本の消費者の皆さまにほっとするひとときと笑顔をお届けすると共に、皆さまの健康・栄養・ウエルネスに貢献することです。今後もその使命を果たし、またさらなる新しい価値をご提供することに注力してまいります。そして日本のステークホルダーお一人おひとりにとって、最も信頼され、尊敬される企業であるために全力を尽くしてまいります。

栄養

ネスレは、アンリ・ネスレが乳児用乳製品を開発し、子どもの命を救って以来今日まで、栄養・健康・ウエルネスに焦点をあてた事業戦略を展開してきました。
科学的な根拠に基づいて、おいしくて栄養的価値があり、かつ環境影響ができるだけ少ない食品飲料を提供するという大目標を掲げ、食品および食生活によるクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上を目指しています。また、栄養に関して明確で責任ある情報を発信し、消費者の皆さまの知識や理解に基づく食生活を支援しています。

豊かな長寿社会のために「こうべ 元気！ いきいき!! プロジェクト」

ネスレは、「こうべ　元気!　いきいき!!　プロジェクト」を通じて、栄養と運動の大切さについて広く高齢者の方々を啓発し、豊かな長寿社会の実現を目指しています。

急速に高齢化が進む日本社会。心豊かな長寿社会を実現するためには、高齢者の方々に「いきいき」とした生活を過ごしていただくことが大切です。誰もが持っている「いつまでも元気に過ごしたい」という願いを実現するためには、日ごろから運動や栄養管理などによる体調管理を心がけることが重要です。

そこで、2013年10月、ネスレ日本はより多くの高齢者の方々に介護予防に取り組んでいただくため、「こうべ 元気! いきいき!! プロジェクト」の連携協定を兵庫県神戸市と締結しました。

ネスレは、自社が持つ栄養や健康に関するノウハウを生かし、神戸市在住の高齢者のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献します。また、高齢者の方々をはじめ地域住民のコミュニティづくりを応援するため、*ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ*などを提供、ネスカフェなどを楽しみながら語らうことができる集いの場づくりを応援します。また、ネスレ日本が講師を派遣して介護予防教室も開催するなど、介護予防への取り組みも支援します。

介護予防のために企業と地方自治体が連携するこのプロジェクトは、全国でも先進的な取り組みです。

ネスカフェを楽しみながら語らう参加者の皆さま（神戸市北区で開催されたイベント）

連携協定を神戸市と締結 ― 写真左から、矢田神戸市長（当時）、弊社代表取締役社長兼 CEO 高岡浩三

食育活動への取り組み

ネスレでは楽しみながら、すぐに役立つ栄養情報や食生活の楽しいヒントをご提供する出張料理教室「ネスレ ウエルネスキッチン」を開催しています。食生活で皆さまの関心が高い、朝の栄養、バランス朝食をテーマに食育講座とネスレ製品で作るメニューをご紹介する料理教室「*ネスレ ミロ* 朝勝つ!教室」と、コーヒーの豆知識やその楽しみ方をご提案するコーヒー教室の2コースを揃えており、2013年には、全国で約130教室を開催、参加者総数は5,000人を超えました。2009年の開講時から累計で約680教室、2万5,000人以上の参加者の方々へ展開しており、ネスレの栄養・健康に関する活動を広めています。

また、社員向け栄養・健康教育として2007年から世界のネスレで一斉に開始した「NQニュートリションストレーニング」では、2013年末時点で全世界の約24万6,000人が受講を終え、日本でも全社員への研修を完了しています。継続的に、新しく入社した社員向けやマーケティングや開発関係者向けに研修を行っているほか、種々のツールで社員の栄養知識向上を図っています。

ネスレ ウエルネスキッチン

製品改良への取り組み（世界統一の栄養基盤）

現在、ネスレは世界中で10,000種類以上の製品を扱っており、1日に販売されるネスレ製品数は全世界で約10億個にも上ります。これらの幅広い種類の製品が、安全で健全な食品であることをチェックするため、ネスレはカテゴリーごとに、摂取過剰が課題となっている栄養素、例えばエネルギー（カロリー）、飽和脂肪酸、糖類の添加などの上限や不足しがちな栄養素の下限のルール化などを盛り込んだ独自の栄養プロファイリング基準を設けています。これらの基準を満たす製品が、「ネスレ栄養基盤」を持つとされており、日本でこの栄養基盤を持つ製品はコーヒーマシン等を除く全製品のほぼ100%に達しています。2011年に消費者庁からガイドラインが出されたトランス脂肪酸については、ネスレでは1999年に製品に含まれる量についての厳格な方針を定め、これを反映した栄養プロファイリング基準を導入して製品改良に取り組んできました。最新の削減目標を盛り込んだ新方針が2014年1月に発表され、さらなる改善が続けられています。

栄養補助食品の分野での取り組み

ネスレ ヘルスサイエンスは、一般のお客さまや医療・介護従事者のさまざまなニーズに応える栄養補助食品を提供しています。代表的なブランドに、経口での栄養摂取が難しい方向けの経管栄養製品を中心とした *アイソカル* 、経口栄養製品の *リソース*、集中的な栄養管理のためのペプタメンがあります。

現在、全国約8,000の医療機関や介護施設に対して栄養ケアに関する情報と共に製品を提供しています。さらに、医療・介護現場における「栄養の力」「栄養の役割」について科学的根拠(エビデンス)をもとにした提案を行うために、全国の医療・介護従事者と共にさまざまな研究も進めています。

また、「ネスレ ヘルスサイエンス ハートフルケア プログラム」を通じて、製品の通信販売を行うと共に、一般のお客さまからの栄養ケアに関するさまざまなお問い合わせにお答えしています。

なお、ネスレ ヘルスサイエンスでは、製品だけでなく、医療・介護従事者向けに栄養評価(アセスメント)ツールの提供も行っています。高齢者の栄養状態を簡易に評価する「MNA®(Mini Nutritional Assessment)」や、嚥下(食べ物や飲み物の飲み込み)状態を評価する「EAT-10(イートテン)」など、日本だけでなく世界各国で活用されている栄養評価ツールの国内での啓発・普及に積極的に取り組んでいます。

お客さまコミュニケーションの取り組み

<パッケージで>

消費者の皆さまが十分な知識を得た上で製品を選択していただけるよう、ネスレでは、現在ほぼすべての製品パッケージ裏面に、「ネスレ ニュートリショナルコンパス」という情報欄を設け、栄養成分表や製品の栄養や健康情報などを表示しています。また、「ネスレ ニュートリショナルコンパス」の延長として、製品パッケージに記載されているQRコードから、詳しい製品の栄養や健康情報、企業情報にアクセスできる新サービスも開始しました（2013年10月に*ネスレ ミロ オリジナル* 240g 、2014年3月に*キットカット ミニ*、*キットカット ミニ オトナの甘さ*へ導入）。

製品パッケージ表面には、エネルギー（カロリー）を気にされる消費者に、カロリーと上手に付き合い、健康的な生活をしていただくため、エネルギー量と栄養素等表示基準値（1日の目安の2,100キロカロリー）に対する割合をコンパクトに表示した「カロリーガイド表示」を記載しています。

<ウェブサイトで>

ネスレのウェブサイトでは、皆さまのウエルネスを応援する「ネスレ ココロとカラダのバランスマガジン」を発行しています。栄養に関する知識を簡単に楽しく学べる大人の食育ゲームをはじめ、ココロとカラダの健康に役立つ情報を提供しています。

「ネスレ バランスレシピ」では、脂質・塩分などにネスレ独自の栄養基準を満たした約2,000件のレシピを紹介。野菜量、カルシウム、鉄分がたっぷりの健康・ウエルネスレシピが満載です。「ネスレ キッズチャレンジ」では、子ども向けの「キッズタウン」や、保護者向けのコンテンツも充実。健康や食育に役立つ情報を提供し、正しい栄養知識を親子で楽しく学べる人気サイトになっています。

<スマートフォン・タブレットで>

2009年6月から提供を開始したスマートフォン向けのレシピアプリ「ネスレ バランスレシピ」では、栄養の専門知識を持つ「食のプロ」が監修した約1,700件のレシピや、体重・摂取エネルギーの管理機能など、栄養・健康についての適切な情報をお届けしています。加えて、iPad向けに音声認識によるページスクロール機能や体重コントロールアプリも追加。2012年に提供を開始した、紫外線が気になる方向けのアプリ「ネスレUV予報」は、2014年4月に新機能を加えてリニューアル、累計10万ダウンロード以上を獲得（2014年5月時点）しました。このように、継続的に開発・改良を行った結果、スマートフォンおよびタブレット向けアプリを合わせて、2014年5月現在で累計200万を超すダウンロード数を記録しています。

<公開講座で>

コーヒーに多く含まれるポリフェノールに関する最新の知見を広くお伝えするため、学会との共催セミナーなどの講演会を毎年開催し、コーヒーポリフェノールと健康に関する啓発活動を積極的に展開しています。2013年5月には、第67回日本栄養・食糧学会（名古屋）において、ネスレ・スポンサードセミナー「紫外線による皮膚表皮細胞障害とコーヒーポリフェノールの防御作用」が開催され、シミ発生のメカニズムや、コーヒーポリフェノールのシミ抑制効果についての最新の研究が紹介されました。

「ネスレ キッズチャレンジ」

累計10万ダウンロードを記録したアプリ
「ネスレUV予報」

ネスレ バランスレシピ
PC：nestle.jp/recipe/
携帯：m.nestle.jp/recipe

「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」

栄養についての知識を持ち、からだもしっかり動かすことで、生涯を通じて健康を保つことができるーこれを子どもたちにより良く理解してもらうためには、教育が重要なツールとなるとネスレは考えています。

世界中の学齢期の子どもたちの栄養・健康・ウエルネスに関する知識と実践する力の向上を目指して、ネスレは2009年より子どもの教育プログラム、「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」をスタートさせました。

日本でも、2011年に小学生低学年を対象とした「からだづくり」支援プログラムを開始、2012年には小学校高学年にも対応できるプログラムの充実を図りました。2013年は約1,100校から申込みをいただき、約20万人の児童に教材を配布しました。プログラム開始から累計すると、のべ約60万人の児童にプログラム教材を提供、のべ3,600校を超える小学校から申込みをいただいています。

プログラムは、からだと食べ物の関係を学ぶ「栄養プログラム」と、栄養プログラムで習ったことも復習できるオリジナルの「ヘルシーキッズ鬼ごっこ」を含むさまざまな鬼ごっこでからだを動かす楽しさを体験する「運動プログラム」から構成されています。2014年度からは、「ひとりでも室内の狭いスペースでもできる」をコンセプトに開発された新しい運動プログラム「ヘルシーキッズ BRT プログラム」の提供も開始しました。また、ネスレ日本の工場でも、地域の小学生や社員の親子を対象に「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」のイベントを開催しています。

のべ 約60万人

「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」の教材を配布した児童数

ヘルシーキッズ鬼ごっこ（宝あつめ鬼ごっこ）

ヘルシーキッズ鬼ごっこ（問答鬼ごっこ）

ヘルシーキッズ BRT プログラム（エアーじゃんけん）

ステークホルダーの声

長谷川かおる氏
前 荒川区立汐入小学校 校長
現 荒川区立汐入東小学校 校長

汐入小学校は、全校児童数770人の大規模校です。ほとんどの児童が高層住宅に住み、外遊びをするためにエレベーターや階段を使う住環境にあります。そのような中、「自分のからだは自分でつくる」をコンセプトに、本校4年生が1年間にわたり、「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」に取り組むことになりました。栄養のことを理解しからだを動かすことで、生涯を通じて健康を保つことができるということを、子どもたち自身に理解してもらいたいと考えたからです。「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」を通して、子どもたちは定期的に骨量測定を行い、自分のからだの内側を数字の変化でとらえることができました。また、からだづくりには、食べることとからだを動かすことが、どちらも大切だということを、知識と体験を通して学ぶことができたことは大きな成果でした。この1年間の取り組みは、子どもたちの意識の変化という点において大変有意義なものとなりました。

COLUMN | ネスレリサーチセンターが東京大学穐門賞を受賞

スイス･ローザンヌにある、ネスレの研究開発機関の中心的な存在であるネスレリサーチセンターは、東京大学の研究や教育プログラムに大きく貢献したことが評価され、同大学より「東京大学穐門（しょくもん）賞」を受賞しました。
「東京大学穐門賞」は、私財の寄付、ボランティア活動および援助、寄附講座、寄附研究部門等により、同大学の活動の発展に大きく貢献した個人、法人または団体に対し、贈呈されます。
ネスレは海外の食品企業として初めて受賞しました。

ネスレの研究開発ネットワーク

ネスレは、約5,000人を擁する私的機関としては世界最大の栄養研究のネットワークを有し、その中心的存在であるスイスのネスレリサーチセンターをはじめ、世界34カ所に研究開発センターがあります。

2009年には全世界の製品に刷新とイノベーションをもたらす科学技術を提供することを目的としてネスレリサーチ東京が設立され、健康栄養分野における最先端の研究機関と共同研究を行い、イノベーションの発掘を中心に活動しています。

また、共同研究のほか、栄養と健康の関連についてより理解を深める取り組みとして、2011年より「食と生命のサイエンス・フォーラム」を企画・実施しています。2013年10月には、ネスレリサーチ東京・ネスレ栄養科学会議・東京大学総括寄付講座「食と生命」共同主催により「脳の認知機能に及ぼす栄養の役割」を開催しました。このフォーラムでは、東北大学加齢医学研究所の川島隆太先生、東京農業大学の喜田聡先生および麻布大学生命環境科学部の守口徹先生より、さまざまなデータをご紹介いただき、食物や食物成分と脳機能との関連性について再評価しました。認知症は、高齢化社会においてその発症率が危機的なスピードで増加している問題とあって、多くの注目を集め、当日は医学、ライフサイエンスの研究をご専門とされる方をはじめ、大学・企業・医療・福祉関連など多方面から250名を超える方々にご出席いただきました。

栄養科学の発展のために ―ネスレ栄養科学会議

日本での栄養科学の進展および科学的な栄養関連・健康情報の普及を目的としてネスレ栄養科学会議を設立し、栄養科学の発展に寄与する活動を行っています。研究者を支援するための研究助成や論文賞の贈呈に加え、健康・栄養に関するさまざまなテーマで講演会の開催、また国内外の研究者による書籍の出版が主な活動です。

ネスレ栄養科学会議の前身であるネスレ科学振興会を設立した1993年以来、20年以上の実績があります。

2013年は8件の研究助成、若手研究者4名に論文賞を贈呈し、講演会「栄養と加齢の生物学」を開催しました。

「2013年食と生命のサイエンス・フォーラム」の様子

ネスレ栄養科学会議
http://nncj.nestle.co.jp/ja

農業・地域開発と責任ある調達

農産原材料や労働力を得ているその地域が、安定し健全であることは、ネスレの事業の成長や株主にとっての価値を高めるためにも不可欠なものです。農業・地域開発を通じて地元へ雇用を提供し、持続可能な生産方法を奨励することにより、私たちは、原材料の供給と品質を確保するとともに、地域経済と農村の人々の生活水準に長期的にプラスの影響を与えることを目指しています。

「ネスレ カカオプラン」2014年から日本でも本格的な取り組みをスタート

ネスレが2009年より開始した「ネスレ カカオプラン」は、①高い値段がつく良質なカカオの栽培により、農家がより良い収入と生活を手に入れ、カカオの栽培を続けられる環境を整えること、②環境を整えることで、ネスレにとっても、良質なカカオの入手や、おいしいチョコレート作りを未来につなげること、の2点を目的としています。また、品質に見合った価格での買い取りだけではなく、病気に強く、良質なカカオがたくさん実る苗木の提供や、カカオ栽培に関する知識・技術を提供する勉強会の開催、さらには水環境や道路の整備、学校の建設などを通じて、カカオ農家が健やかに生活できるようなサポートをカカオ生産国で実施しています。（「ネスレ カカオプラン」については、グローバル版14ページもご覧ください。）

ネスレ日本でも、「ネスレ カカオプラン」の本格的な取り組みを始めました。2014年、ネスレ日本が製造・販売するキットカットに、持続可能な農業のための国際的な認証プログラムであるUTZ認証ラベルの導入を開始。UTZ認証には、適正な農業実践と農園管理、安全で健全な労働条件、環境保護、児童労働撤廃への取り組みの面で基準が設けられており、すべての基準が満たされて初めて認証されます。2014年3月から、キットカットの主要製品にUTZ認証ラベルを導入がスタート、2015年には100%導入を目指します。

Nestlé Cocoa Plan カカオプラン

UTZ Certified Better farming Better future

UTZ認証

COLUMN 「『ネスレ カカオプラン』インターンシップ」

2014年、ネスレ日本は、これからの社会に求められるグローバルな視点とリーダーシップを兼ね備えたグローバルリーダーの発掘・育成を目的とした採用プログラム「『ネスレ カカオプラン』インターンシップ*」を実施します。このインターンシップコースは、「ネスレ カカオプラン」が実施されている世界最大のカカオ生産国、コートジボワールに赴き、実際に起こっている課題に向き合うという実体験を通じて、グローバルリーダーとして必要な能力の開発に貢献するものです。

*このプログラムの応募受付は2014年5月30日に終了しています。

水資源

企業としてのネスレの長期にわたる成功は、私たちの日々の事業活動に必要な、そして生産者や消費者など、すべてのステークホルダーの生活や仕事に不可欠な水資源が持続的に確保できるかどうかにかかっています。世界最大の食品飲料企業として高品質な製品を作るため、私たちの工場と施設では効率的な水使用のため、厳格な基準を設けています。

水の有効利用

姫路工場（兵庫県）、島田工場（静岡県）のコーヒー製造工程で導入されている「ノンフロン二元（二酸化炭素/アンモニア）冷凍装置」は節水効果が高く、設置の翌年には冷凍機における水の使用量は、両工場でそれぞれ19%減となり、現在もその水準を継続しています。2012年6月に完成した霞ヶ浦工場（茨城県）のボトルコーヒー製造プラントは、一般的に「UHT・ホットパック充填」より水の使用量が少なくて済む「無菌充填プロセス」を採用しています。最新鋭の機械を導入したことで、ネスレが従来採用してきた「無菌充填プロセス」よりさらに1日当たり約240トンの削減が可能となりました。この量は平均的な世帯が使用する水の量で換算すると、約330世帯分に相当します。

また、2008年より開始した冷却塔のオペレーションの最適化で、生産量が増加したにもかかわらず、2013年には3工場の水の使用量を2008年と比較して6%減らしています。

プロジェクトWET

プロジェクトWET(Water Education for Teachers)は教育ツールを用いて世界中の児童の水問題に対する意識の向上を図る国際的な取り組みです。ネスレウォーターズ（本部フランス）は1992年からメインスポンサーとしてその活動をグローバルに支援してきました。

日本では、このプロジェクトは公益財団法人河川財団が推進しており、ネスレ日本は、2012年から工場を中心に活動を始めています。WETのツールを使って子どもたちを教育することができる『エデュケーター』という資格を持つスタッフが既に12名おり、工場近隣の小学生を対象に、水や水資源に対する知識・理解・責任感を深めてもらうよう取り組んでいます。

姫路、島田工場が WET の教育ツールを使用して実施したプログラム例

環境サステナビリティ

ネスレは現在、そして未来の人々のため、環境と貴重な資源の保全に努めています。自社工場など、私たち自身の事業運営の効率化を図ると共に、パートナー企業や団体と協力して、バリューチェーン全体でのネスレ製品の環境パフォーマンスの向上に向け、継続的に取り組んでいます。

省エネルギー・温暖化ガス削減の取り組み

島田工場では、2004年に約3億円を投じて、世界30カ所以上のネスレのコーヒー工場の中で最初にメタン発酵排水処理システムを導入しました。この排水処理は嫌気性微生物（メタン菌）による有機物の分解処理で、蒸気などのエネルギーを必要としないため、工場でのエネルギー使用量が大幅に削減され、約12%のCO_2排出量削減につながりました。さらに2005年からは、このメタン発酵排水処理システムから発生するバイオガス（主にメタンガス）をボイラーの補助燃料として利用しており、これによる省エネ効果は原油換算で毎時約70リットルとなっています。

2004年に姫路工場、2006年に島田工場にコージェネレーションシステムを導入しました。コージェネレーションとは熱電併給とも呼ばれ、発電時に発生した排熱のエネルギーを有効利用することで総合エネルギー効率を高めるエネルギー供給システムです。姫路工場では、LNG（液化天然ガス）をタンクローリー輸送して工場内のLNGサテライト基地に備蓄する燃料供給方式を導入し、最大92%という高い総合エネルギー効率（一般的には70～80%）を達成。液化天然ガスは重油に比べ、大気汚染につながる窒素酸化物（NOx）や硫黄酸化物（SOx）、また地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を低減することができます。

これらテクノロジーの先進性・先導性が高く評価され、2005年には第9回新エネ大賞（新エネルギー財団）を受賞しました。この新規システムにより既存設備と比較して約19%の省エネおよび約30%のCO_2排出削減を達成しています。

また、島田工場では、コージェネレーションシステムのみならず、脱臭装置、エアヒーターなど他の燃焼施設に至るまで、従来の重油燃料から環境負荷の少ない都市ガスへ

霞ヶ浦工場（茨城県）

の転換が実現されています。霞ヶ浦工場においても同様に天然ガスへの転換が進み、2013年、主要設備においてはほぼ100%の転換を果たしています。

姫路工場と島田工場では、コーヒー抽出工程で排出されるコーヒーかすのほぼ100%を燃料として再利用し、その燃焼エネルギーで発生した蒸気を工場の熱源として利用しています。この流動床ボイラーによるコーヒーかす熱エネルギー回収システムは、日本で初めて1983年に島田工場に、1986年に姫路工場に導入されました。姫路工場では、燃料による年間エネルギー使用量の約20%がこのコーヒーかす（バイオマス）サーマルリサイクルで賄われており、2007年、このシステムは先導的なバイオマス活用の取り組みとして兵庫県の「ひょうごバイオマスeco モデル」第31号に登録されました。

流動床ボイラーをはじめとする一連の取り組みで、島田工場は2013年、経済産業省が認定する、次世代エネルギーパーク計画の一環である、静岡県の「ふじのくにしずおか次世代エネルギーパーク計画」の協力施設となっています。

ネスレが世界のあらゆる業界に先駆けて開発した「ノンフロン二元（二酸化炭素/アンモニア）冷凍装置」が姫路工場のコーヒー凍結乾燥工程に導入されたのが2005年、そして2011年4月には島田工場にも導入されました。

廃棄物0

2014年、霞ヶ浦工場が達成

二酸化炭素、アンモニアは共に自然冷媒で、システム内を循環し通常は大気に放出されないため、地球温暖化やオゾン層破壊への影響をほとんどなくすことができるのです。ネスレは、*ネスカフェ ゴールドブレンド*などに使用されるフリーズドライコーヒーのプラントにおけるフロン冷媒全廃を目的に、15年がかりの脱フロン対策を推進してきました。モントリオール議定書のフロン撤廃の条約期限を5年前倒しにした世界的なネスレグローバルイニシアチブを、日本ではさらに約5年前倒しで達成。島田工場では装置の導入により、2011年3月～7月末では、2010年同期比で電力量が26%減少しました。

パッケージで

霞ヶ浦工場のボトルコーヒープラントでは「無菌充填プロセス」を採用したことにより、ペットボトルの減量が可能となりました。キャップとラベルも含めファミリーサイズ（900ml）ペットボトルコーヒーでは国内最軽量* のパッケージを継続して使用しています。また、2012年に新設したラインでは、厚さ30μmのラベルを採用し、ラベルの厚みも薄くなりました。今後もさらに使用する資源の削減に取り組みます。

ガラスびんもより薄く軽いものに改良。他包材への転換を図ったこともあり、2004年から2013年までにガラスの使用量を45%削減しました。*ネスカフェ エクセラ*のガラスびん製品は日本ガラスびん協会から「ガラスびんアワード2013」環境優秀賞を授与されました。

*ファミリーサイズ（900ml以上）:キャップ・ラベル・ペットボトル合計重量（2014年1月29日現在 当社調べ）

廃棄物0に向けて

グローバルでの取り組みの一環として、ネスレ日本の工場では廃棄物0を目指し、製造過程での廃棄物はもとより、工場から出る一般ゴミの減量にも配慮しています。

島田工場では、2010年より、コーヒー製品の製造過程で発生するコーヒーかすの一部を培養土にリサイクルする活動を始めました。コーヒーかすから醸成された培養土は、地元島田市にある「ばらの丘公園」へ寄贈されています。また、*キットカット*を製造する霞ヶ浦工場では、食物残さの全量飼料化に取り組んでいます。ウエハースなどの食物残さは、近郊のダチョウ農場や養豚場、牛牧場などへ運ばれ、動物たちの飼料として利用されています。これらの取り組みにより、霞ヶ浦工場は2014年、廃棄物0を達成しました。ちなみに世界中で約450のネスレの工場があるなか、廃棄物0を達成したのは2013年は61工場でした。

国際規格の認証取得

日本国内の3工場すべてにおいて、2008年12月までに、ISO14001（環境マネジメントシステム）に加えてISO22000（食品安全マネジメントシステム）の国際規格認証を取得。また、2011年には世界中の食品産業界で広く認められているFSSC22000（食品安全システム認証）の認証を取得しました。

無理、無駄、ムラをなくす改善活動

ネスレでは、消費者の皆さまを中心に据えた継続的な業務効率改善活動である「ネスレ・コンティニュアス・エクセレンス」を2008年より全世界で推進しています。

日本でも、国内3工場を皮切りに本社部

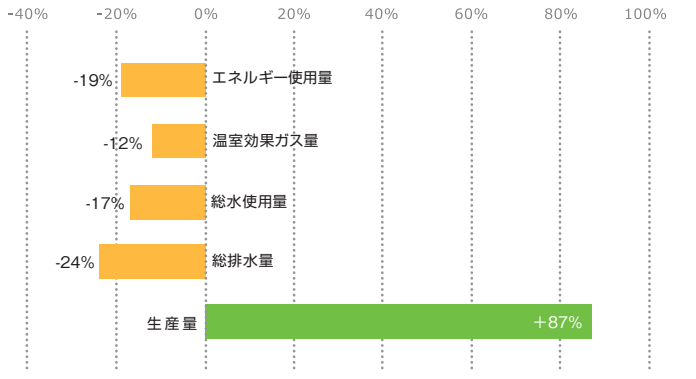
門においてもこの活動を導入し、原材料の調達から、営業活動なども含め、皆さまのお手元に製品が届くまでのモノや価値の流れ全体の中で、消費者の皆さまにとって価値のない、無理、無駄、ムラをなくすことに精力的に取り組んでいます。これを日々継続して行うことによって、在庫や製造コストを適正にし、製造のリードタイムを縮小しています。また苦情の減少にもつながっています。

ペーパーレスオフィスもこの活動の一部です。書類の電子化、業務フローの見直しなど、積極的に取り組みを進めています。この取り組みは単に紙を削減するだけでなく、副次的には仕事の効率化を進める効果もあります。2013年には、2011年と比較して全社の紙の使用量を41%削減しました。特に、神戸本社の紙の使用量は3年間で半減（55%削減）しました。

物流での取り組み

2009年に、トラック輸送に比べてCO_2排出量が約6分の1といわれる鉄道輸送を利用することで、ネスカフェ 缶コーヒーは国土交通省ならびに社団法人鉄道貨物協会が制定する「エコレールマーク商品」の認定を取得しました。また、国内3工場で製造される製品の北海道への配送を、フェリー輸送に100%移行したことで、2010年には、「エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者」として、国土交通省海事局長より表彰を受けました。また、さらに環境負荷の少ない物流を目指して、トラック便の積載効率を改善することによる総トラック台数の削減、大型トレーラーの導入、ループ便（トラックの有効利用）による輸送効率の向上にも取り組んでいます。

■製造における環境パフォーマンスの改善



*データは2003年対比

期間2003年～2013年

ネスレ日本の自社工場での生産量は2003年から2013年までに87%増加していますが、同期間に、エネルギー使用量を19%、温室効果ガス排出量を12%、総水使用量を17%、そして総排水量を24%、それぞれ削減しました。

白くカラーリングされたネスレデザインコンテナ

顧客配送の分野でも、工場からの直送に追加して、製造協力企業からの直送も開始、輸送距離の削減、在庫削減によるより新鮮な製品の納品を可能にする取り組みを行っています。特に、2012年から本格的に取り組んでいるモーダルシフト（大量輸送できる鉄道・海運輸送に転換）については、国の環境事業である平成25年度「モーダルシフト等推進事業」として認定され、年間で東京ドーム5.5個分の植林効果（200t以上のCO_2削減）を達成しています。2014年6月には、「モーダルシフトの取組に関する宣言と確認」をJR貨物グループと共同作成、CO_2排出量の少ない鉄道への乗換を積極的に推進することで合意・確認しました。さらに、輸送によるCO_2削減活動だけでなく、物流のパートナー企業である配送センター各位においてもISO14001（環境マネージメントシステム）の取得を推奨しています。既に5社で認証を取得されているほか、他の主要配送センターでも認証取得に向けての準備を開始されています。今後もさらに環境負荷の少ない物流を推進していきます。

社用車

ネスレは世界で「カーフリート ロードマップ」を策定し温室効果ガスの一つであるCO_2の排出量の削減とガソリンの使用量の抑制に取り組んでいます。ネスレ日本においても、環境性能に優れた車両の導入を促進しています。役員車を含む役職者用車約100台にハイブリッド車を採用したのに続き、営業活動用車約450台についても、世界一の燃費性能を持つハイブリッド車を採用し、いずれも順次切り替えを進めています。

ステークホルダーの声

松尾正俊氏
日本貨物鉄道株式会社　ロジスティクス本部
営業統括部 営業第一グループ　サブリーダー

環境にやさしい鉄道コンテナ輸送

地球温暖化の原因の一つとされるのがCO_2（二酸化炭素）です。

鉄道貨物輸送は、輸送単位当たりのCO_2排出量がトラックの約6分の1と、さまざまな輸送機関の中で最も少ない輸送手段です。そのため、近年「環境にやさしい」輸送手段として注目を集めています。

ネスレ日本さんとは、環境にやさしい物流の実現を目指し、モーダルシフトへの取り組みを進めてまいりました。

特に、その鉄道利用拡大の取り組みが平成25年度の国の認定事業として認められたことは、パートナーである私どもJR貨物としても非常に光栄なことであり、持続可能な社会を次の世代へ引き継ぐためにも、これからも協力しながら環境にやさしい物流を推進していきたいと考えています。

人材、人権、コンプライアンス

ネスレは社員こそが成功の源と考えています。ネスレの社員は、尊敬を持って同僚に接し、責任を持って業務にあたることが求められます。ネスレの価値観と諸原則を共有できる有能で意欲的な人材を雇用し、育成と昇進に関しては平等に機会を提供します。個人のプライバシーを尊重するとともに、職場ではいかなるハラスメントや差別も許しません。

ダイナミックなチームづくりへ

2011年から、さまざまな個性が切磋琢磨するダイナミックなチーム作りを目指し、選考時期・方法を学生が選べ、何度でも挑戦できる新しい通年採用選考プロセス「ネスレパスコース」を導入しました。全8項目のエントリーコースから2コースを選択しエントリーするか、または通年で募集している「通年インターンシップ」に参加することにより「ネスレパス」を付与された学生は、次世代リーダーを育成する社員参加型研修「ネスレチャレンジプログラム」に希望の時期に参加でき、その後、面談を経て採用が決定されます。

また、2012年3月からはアソシエイト（内定者）の主体的なキャリア形成を支援する「ネスレ アソシエイト制度」を導入しました。全世界の社員向けに導入しているキャリア形成プラン共有制度（PDG = Progress &Development Guide）を基盤としたこの新制度により、アソシエイトが“ネスレ流”の育成に触れ、学生生活をより充実したものにできるよう支援します。

また、ネスレ日本の新しいビジネスモデル創出に社員が参画することを目指し、2011年に「ネスレ日本イノベーションアワード」を設けました。アイデアを出し、周りを巻き込んで徹底的にやり抜くという社員の起業家精神を応援することによって企業競争力を高めていくのが狙いです。優れた成果には、報奨金やネスレスイス本社訪問旅行などさまざまな形での表彰が行われます。社内での浸透と共に応募数も増え、3回目となった2013年の応募者は1,500名近くとなりました。

ダイバーシティ@ネスレ日本

さまざまな違いを持つ社員が集まった組織の方が新しい発想やイノベーションが生まれやすくなる – ネスレ日本では、やる気のある社員には性別、国籍、年齢を問わずに成長の機会が与えられ、社員が“ネスレで働くことを楽しいと感じる”会社であるよう、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。

2013年からは、ネスレグループ内の海外人事交流プログラムを開始。アフリカ、オーストラリア、ASEAN諸国で日本の社員が勤務し、日本は各国から社員を受け入れています。幅広い視野とリーダーシップを持ち、自らイノベーションを起こすことができる人材育成に注力しています。

ワークライフハーモニーを支援

女性のキャリア継続や男性の育児参加を促すため、2012年4月に、霞ヶ浦工場に事業所内保育園「ねすれっこ・はうす」、2014年4月には、神戸本社内に託児ルーム

「ネスレ キッズルーム」を開設しました。また、男女共に育児休業を最大10日間有給化すると共に、産前休暇、育児休業、介護休業対象者に1 回の申請につき最長6カ月の在宅勤務を認める制度も2010年より設けています。これまでに100名以上の男性社員が育児休業制度を利用しています。

メンタルヘルス研修

社員の心の健康（メンタルヘルス）を支援するため、全社員に対する「メンタルヘルス・セルフケア研修」を2010年より実施しています。この研修によって、社員がメンタルヘルスについての理解を深め、自らそれを維持・管理できるようになることを目的としています。

安全衛生管理・CARE プログラム

OHSAS 18001（労働安全衛生マネジメントシステム）を日本のネスレの3工場で取得済です。

連続無事故日数（休業災害が発生しない連続日数）をイントラネットに掲示し、各職場での安全に対する意識向上を呼びかけています。また人事、公正な業務、安全衛生、環境の4分野でのネスレ独自の第三者監査プログラムCARE（ケア）が2007年からネスレ日本グループの全事業所で実施されています。

コンプライアンス意識の啓蒙

ネスレにおいてコンプライアンスとは「ネスレの経営に関する諸原則」を実践することであり、法令の順守は当然そこに含まれています。社員一人ひとりがこのことをより深く理解し、職場やステークホルダーの皆さまとの関わりの中で自信をもって実践していくことを支援するため、コンプライアンス研修や意識啓蒙活動を実施しています。新入社員、3年目社員、新任係長・課長、部長等の研修プログラムでは、参加者は積極的に討議に参加し、自らも組織としても、公正で誠実な行動をとることについて考え、意識を深めています。

「ねすれっこ・はうす」

上田理恵子氏
「キッズルーム」を運営する
株式会社マザーネット代表取締役社長

ステークホルダーの声

託児施設は、常設すると人件費などコストが大きな負担となりますが、利用したい時間帯だけオープンするというのは、新しい形の社内託児所の運営方法です。

また、託児だけではなく、社員のコミュニティや、復職サポートの場としての機能もあり、仕事と子育てを両立する上で、非常に有効な施設になると思っています。

社会貢献・ボランティア

助け合う社会を実現するために

【ボランティア活動で優良NPOを資金援助】

2013年から、社会貢献活動と密接な関係のある優良NPOを支援する制度を導入しました。支援として寄贈する資金は、ネスレ社員一人ひとりがボランティアとして活動した実績をポイントとして数値化し、会社からポイントに応じた額を寄贈するというメカニズムを採用しています。

【フードバンク】

「セカンド・ハーベスト・ジャパン」と「フードバンク関西」が弱者支援として定期的に実施している食料の無償配布活動に賛同し、飲料やチョコレートなどの商品を温度管理や再流通の防止策をお願いした上で提供しています。また「セカンド・ハーベスト・ジャパン」が毎週土曜日に上野公園で行っている炊き出しなどにも社員が参加協力しています。

環境保全のために

【地域美化活動】

2009年からは富士山の自然環境保護に取り組んでいる環境NPO富士山クラブの活動に賛同し、清掃活動に年に2回以上参加協力しています。また、本社のある神戸市の六甲山でも清掃ハイキングを春・秋に行っているほか、本社、工場、支社など各事業所の周辺清掃活動も定期的に行っています。

【環境保全活動】

六甲山系グリーンベルト整備事業（国土交通省近畿地方整備局）の活動趣旨に賛同し、2009年から「森の世話人活動」に参加し、災害に強い森づくり、自然豊かな森づくりを目指して活動しています。六甲山麓の担当エリア（“ウエルネスの森”と命名）では、下草刈り、間伐や植樹などの活動を通じて森の整備を行っています。

「セカンド・ハーベスト・ジャパン」に資金援助

コミュニティのために

【収集活動】

ペットボトルのキャップを集めリサイクルし、世界で貧困にあえぐ子どもたちにワクチンを提供するボランティア活動を推進している特定非営利活動法人「エコキャップ推進ネットワーク」に協力しています。他にも（財）ジョイセフ 国際協力推進グループを通じて、ベルマーク、使用済み切手などの収集ボランティア活動にも協力しています。

【献血活動】

神戸本社や工場事業所などで採血バスによる献血活動を継続的に行っています。本社では30年以上にわたる継続活動が評価され、2009年には日本赤十字社から功労賞を受賞しました。

【協賛イベントでの活動】

ネスレ日本グループは、1995年の阪神・淡路大震災を機に始まった光の祭典「神戸ルミナリエ」と障がいをお持ちの方々に祭典を楽しんでいただくための「神戸ルミナリエネスレハートフルデー」に協賛しています。この会場では、毎年多くの社員ボランティアが参加し、来場者の方々のおもてなしをしています。

「森の世話人活動」

COLUMN | 音楽の力で東北復興支援「ルツェルン・フェスティバル」

「東日本大地震の被災地に音楽を通じて希望を届けたい」。
ヨーロッパでも名高い音楽祭の一つであるスイスの「ルツェルン・フェスティバル」が、2013年9月から10月、「ルツェルン・フェスティバル アーク・ノヴァ 松島2013」として宮城県松山町で開催されました。毎年スイスで開催される「ルツェルン・フェスティバル」を応援してきたネスレは、このイベント開催をサポートしました。

「ルツェルン・フェスティバル アーク・ノヴァ 松島2013」。
黒いバルーンのような建物は、世界的建築家 磯崎新氏らが手がけた可動式コンサートホール。

COLUMN

霞ヶ浦工場 ドクターヘリのヘリポート。
「地域と共生する工場」を目指し、地域医療にも貢献

利根川水系の豊かな水に恵まれ、緑豊かな自然に囲まれた環境に位置する霞ヶ浦工場。菓子、飲料、栄養補助食品など幅広い製品群を製造するこの工場では、「地域と共生する工場」を目指してさまざまな施策が行われています。地域医療への貢献もその一つ。救急専用のヘリコプターであるドクターヘリのヘリポートを2008年から敷地内に設置、救急処置を必要とする近隣の患者の搬送に活用されています。